

# 地方通信



## 東海道自動車道路の調査

内務省では産業國防の見地から東京、福岡間自動車専用道路計畫を決定、第一期工事として名古屋、神戸間を着工すべくまづこれが調査費として、昭和十八年度豫算に三十萬圓の經費を計上したが、戦争遂行上必要なる豫算編成方針により結局三ヶ年六萬圓（二萬圓宛）に壓縮決定した旨内務省から十日發表された。よつて國土局道路課では調査方針を根本的に建直すと共に技術を極度に發揮し工事の具體化に備へることになった。

## 山口縣下沖浦道路改修

先の災害により沖浦村内の縣道延長三里がほとんど缺潰したが、縣では直ちに修理に着手、全村民總動員を以てこれに協力したので復興作業は著しい進捗を見、大體において竣工するに至つた。

## 高知縣下志和道路作業

高知縣高岡郡東又村志和郷浦常會、日婦會員、國民學校においては、この程二日間にわたり協力一致總動員を以て、縣道窪川志和線の志和峠時より志和海濱に至る路面の修理、溝浚へ、雜草刈取等道路愛護の勤

勞作業を行つたが、當日水田須崎土木出張所長一行は現場に出張金一封を贈り感謝の意を表した。

## 高知縣林道開通式の舉行

今春二月第二期工事に着手した高知縣高岡郡大桐村桐見川から長者村小日浦に至る桐見川線林道は、總經費五萬九千餘圓を費し十一月二十日竣工したので、二日午後一時から同郡尾川村大屋敷において竣工式を舉行した。

長官閣下がお見えになつて「氣をつけ」の號令一下開通したばかりの林道の兩側に堵列した純朴な村民が、はじめて見る飾り氣なく如才ない沖野知事を涙を流して迎へた話——これは二日午後一時から高岡郡尾川村大屋敷に舉行した桐見川線林道竣工式に臨んだ沖野知事の日であるが、郷に入れば郷に従ひますよ」と迎へられれば、寸暇を活用して氣輕に何處へでも顔を出す沖

野知事が、草深い山中の村民に興へた感激は蓋し偉大であつた。この日午前十時半國民服の沖野知事を乗せた自動車は縣廳を西に向つて疾走する。伊野町を過ぎて越知町に向ふ途中田園では増産に勵む尊い農民の涙ぐましい姿が目につく。これらの姿に知事は一々頭を下げ、同乗してゐる小栗高知電氣工業社長を感心させる。十一時四十分越知町谷脇旅館に着いた。

ここで午食をすませて竣工式場の尾川村大屋敷へ急ぐのである。旅館前に待ち構へた小島佐川署長が『越知町國民學校々庭で産報の體育大會を舉行してゐるが』訓示をお願ひしたいが、御差支があればお願ひだけでもお見せしてほしい』と願出る。時間の餘裕がないのである『それぢやちよつと願ひだけ出させよう』と知事は會場へ走り五分間に互に訓示して産業戰士を感激させた。午食も速い、訓示に割いた時間を食べる速力を早めて補足しようとするのである。いよいよ午後一時近く車は竣工した林道を疾

## 地、方、通、信

驅して式場に近づいた。見れば竣工を祝福して素朴な裝飾した道路の兩側に埒列した全村民老若男女が前記した状態である。車を降りた知事は『御苦勞』を連發してテント張の長官閣下御休養所に入つた。生れてはじめて知事の顔を見た村の古老が嬉し泣きしてゐる。これにはさすがの沖野知事も感激して『實に純朴ですね』と急峻な褒ひかかるやうな山を見あげた。式後知事は小栗高知電氣工業社長の願ひを容れて、同社經營の小日浦嶺山や村内の状況を視察する。長者、大桐、尾川三村聯合主催の記念相撲場へも顔を出す『時局下の知事は健脚でなければならぬ。この健脚を利用して縣内隈なく視察し、あらゆる人たちの話を見聞せねばならぬ。要するにお互に話せばわかるじやないか』といふあたり沖野知事の面目躍如たるものがある。けはしい山と山に圍まれたこの大自然の溪谷に宗匠知事は一句うかんだ『桐見川はしき溪谷道開き今日を 壽ぐ冬の山人』

## 福岡縣北部新國道の開設

國道海底隧道開通後必然的の措置として取り敢ず明年度豫算に工費二十萬圓を計上し、三ヶ年繼續事業として門司、大里間に新國道の開設を實施する事に決定、大藏省においてもこれを認むるに至り、期待した所とは言へ五市民に凱歌を奏した。門司、大里間に出現する新國道は關門海底隧道を経て戸畑に至り、計畫中の若戸海底隧道に結んで若松に至る北九州重工業地帯の輸血路であつて、將來は之を福岡に延長し、東京、博多間を結ぶ重要自動車道路となる、わが國最初の縱貫的大動脈である。幅員〇〇米と言ふ堂々たるもの、第一期工事として實施さるる門司、大里間は早靱の瀬戸をくぐつて門司側に上陸する海底隧道自動車路（人道は、和布刈岬でエレベーターで昇降）が入舟町附近の古城山横腹に抜け出るの、これと接続して現地の堀川町から幸町

の線を横斷し、錦町國民學校附近の下から再び清瀧山裾の地底に入つて新しく隧道を掘鑿し、延長〇〇米で市役所の下を通過税關岸壁附近に現はれて、海岸線を眞直ぐに大里に走り、門司驛海岸附近に達するもので、將來はこれから更に海岸線を小倉、戸畑に繋がんとするものである。門司、大里間新國道の工事本決りと共に、門司市では愈々本格的に市内の交通網整備に乗出す事となつたが、海底隧道の人道連絡路に兼ねた線地帯路線たる和布刈道路は愈々明年度早々着工することに決定した。即ち現在甲宗八幡前から和布刈に至る道路は幅員著しく狭少で且つかうも多いで、之を出来る限り直線として幅員を擴張し、和布刈神社裏の海底隧道人道エレベーターと結び、一面觀光道路としての施設を加へ、又將來は之を田野浦に延長して市の交通路線とする計畫である。門司、大里間の新國道とこの路線が竣成すれば、それは單に市内の交通と言ふだけでなく、その重要性は國道海

底隧道の眞價を遺憾なく發揮し、鐵道海底隧道の開通によつてややともすれば必漸せんとする門司中央部の繁榮を、從來以上に増大させる結果ともなり、兩海底隧道を通じて本土、九州間の二大輸血路を持つ門司市としては、これ以上の喜びはないのである。

### 鳥取縣下の道路愛護 作業

鳥取縣東伯郡下郷村では十二月十八日各戸より一名づゝ總出で村内縣道の道路愛護奉仕作業を行ひ好成绩を得た。

### 道路は文化の眼

躍進東石郡の消長を決する交通網の擴充整備は單に經濟力の向上に資するのみならず、實に文化交流の大動脈であるに鑑み、郡當局では既に以前から主要道路鋪裝計畫を確立し、多年郡官民一體となつて長期戦下に培はれた滅私奉公の精神を發揮し、朴子街を中心に四方へ放射する産業道路の鋪裝を敢行し、既にマガダム鋪裝延長二萬餘米、砂利敷、七萬餘米の鋪裝を完成し、郡勢の興隆に多大な貢獻をなしたが、引續き未完成道路の鋪裝計畫を立て、去る十一月二十五日から朴子—鹽水間の一大幹線十六軒餘のマガダム鋪裝に着手し、連日田尻警察署長初め西脇行政主任以下警察官が幾十保甲民を督勵し、炎天下をものともせず道路網の完成に努力を捧げてゐるが、同幹線は三日迄に完了の見込みで、従つて當郡の一大事業たる全幹線の鋪裝工事も近く完成されることゝなつた。